

インタビュー

松阪市高齢者 保健福祉計画等 策定委員会

松阪の未来を考えて

2000年4月に介護保険が始まって20年が経ちました。超少子高齢社会を生きている中で、介護保険制度はとても重要です。この機会に、高齢化が進む松阪市の現状に目を向け、未来について考えてみましょう。松阪市では12月に、市民の皆さまからのパブリックコメントを募集する予定です。たくさんのお声をお寄せいただくようお願いいたします。



松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会
(左)会長:医療法人 桜木記念病院
志田 幸雄 院長
(右)副会長:みどり薬局
長島 喜久雄 薬剤師

高齢者保健福祉計画等
策定委員会とは

地域の医療・介護サービスに関わる多職種の方々や地域住民が参加し、介護保険や高齢者に対する施策についての意見を交わし事業計画へと反映する委員会です。

今後の介護保険のあり方

●志田会長

介護保険制度の開始当時と比べ、介護保険の仕組みやサービス利用が随分と浸透してきたと感じています。しかし、認知される一方で、高齢者一人一人の自立支援につながる介護サービスの充実と介護する家族の負担軽減のためには、様々な課題が山積しています。地域性もあるので、5つの地域包括支援センターと協力し、引き続き周知を進めていくべきです。

●長島副会長
昨今、高齢者の医療や介護に対する需要が増加していく中で、関係者との連絡調整の要であるケアマネジャーの成り手が減少しているという問題が生じています。十分な介護サービスが提供されるためにも、成り手を育てることも課題の一つとして捉えていきたいです。

この20年間で人口動態は変化し、介護保険料を負担する側の人口は年々減少しています。このままでは、高負担低福祉という偏った介護保険にもなりかねません。介護予防・認知症予防についても重要視すべきだと思います。また、移

動や買い物同行など介護保険外の生活支援への需要も高まっています。安心して暮らすためには、これらの地域ぐるみのバックアップも必須です。

近頃、介護人材も不足しており、社会保障制度や公的なサービスに頼り過ぎると、一か所に負担がかかり、制度の安定した運営に支障が出る可能性があります。地域の皆さんにも、出来る限り自分のことは自分でいい、普段から健康づくりや介護予防に努め、地域から介護保険を支える側であることを認識してもらえると嬉しいですね。



【問】 高齢者支援課 ☎53-4099